

## 第4回仙台国際音楽コンクール ボランティアニュース

# コンチエルト

第4回 仙台国際音楽コンクール

ヴァイオリン部門:2010年 5月22日~6月6日

ピアノ部門:2010年 6月13日~6月27日

2010.02.19 Vol.4-5

Concerto  
The 4th simc Volunteer News

☆仙台会場のオーディション初日、組織委員長である奥山恵美子仙台市長へのインタビューが実現しました。仙台国際音楽コンクールについて、またボランティアとして携わる市民の方々へのメッセージなどをお伺いいたしました。

### 巻頭インタビュー

仙台市長

**奥山 恵美子 市長**

一 通常のクラシックコンサートとは異なった「オーディション」をお聴きになった感想をお聞かせください。

若い音楽家達がプロの道を目指すための第一歩となるオーディションですので、非常にチャレンジ精神溢れる、強い意気込みを感じる演奏でした。「挑む」という気持ちがこちらにまで伝わってくるように感じました。

一 クラシック音楽で一番先に思い出される曲は何でしょうか。その曲にまつわる思い出等ございましたらお聞かせください。

小さい頃、父が家にあった蓄音機でレコードを聴いていました。クラシック音楽が好きだったのでした。当時の蓄音機では、交響曲を1曲聴くためには何度もレコードを交換しなければならなかったのです。父はベートーヴェンをよく聴いていて、『田園』が思い出に残っています。曲を聴くと「お父さんの曲だ」と懐かしくなります。



一 仙台国際音楽コンクールも今年で4回目を迎え、音楽家を目指す出場者に注目されるコンクールとなっていましたが、コンクールの今後の展望について、お考えをお聞かせください。

若い音楽家の登竜門となるコンクールは、続けていくことが重要だと思います。出場者のこれから成長と活躍により、コンクールの評価も決まってくると思います。

仙台という街は「楽都」と呼ばれ、若い方を対象にした様々な分野のコンクールや大会も多く開催されています。その度に感じることは、市民の皆様に、これから世に出て活躍する若い人を受け入れて、応援する気質が根付いているということです。それが仙台の街の特長であり、「楽都」と呼ばれる根幹を成していると思います。

一 音楽なども含め、文化事業の果たす役割についてどのようにお考えをお持ちでしょうか。また、仙台市のシティセールスの位置づけとして仙台国際音楽コンクールをどのような視点でとらえていらっしゃいますか。

仙台国際音楽コンクールは、今日のオーディションにも多数のお客様が来場していますし、市民の方々がボランティアとして運営にも参加していて、広く受け入れられ定着してきていると感じます。それは仙台市民の方々にとって「親和性」を感じられる事業であるからこそだと思います。

城下町という歴史が培ってきたのか、市民の皆様は端正な、美しい街がお好きだと感じますし、仙台という街をそのようにしたいという思いがあるのではないでしょうか。コンクールや仙台フィルなどは、その存在が仙台の街にふさわしく、街の誇りとなると市民の方々が感じているからこそ、継続していくことでもあります。皆様のなかにクラシック音楽というものが広く息づいていて、市民の方々が大切にしている“心”を表現するひとつのものとして仙台国際音楽コンクールがあるのだと思います。仙台という街の特長で、市民の方々が大切にしている“心”を世界に発信するためのメッセージのひとつでしょうね。

一 このコンクールには300名を超える多くのボランティアの方々が関わっています。ボランティアへのメッセージをお願いします。

コンクールのボランティアは、フェスティバルなどとは異なる性質があり、それは日常の「お茶の間」というよりも、非日常的な書院造に見られる「床の間」という印象に例えられるのではないかでしょうか。

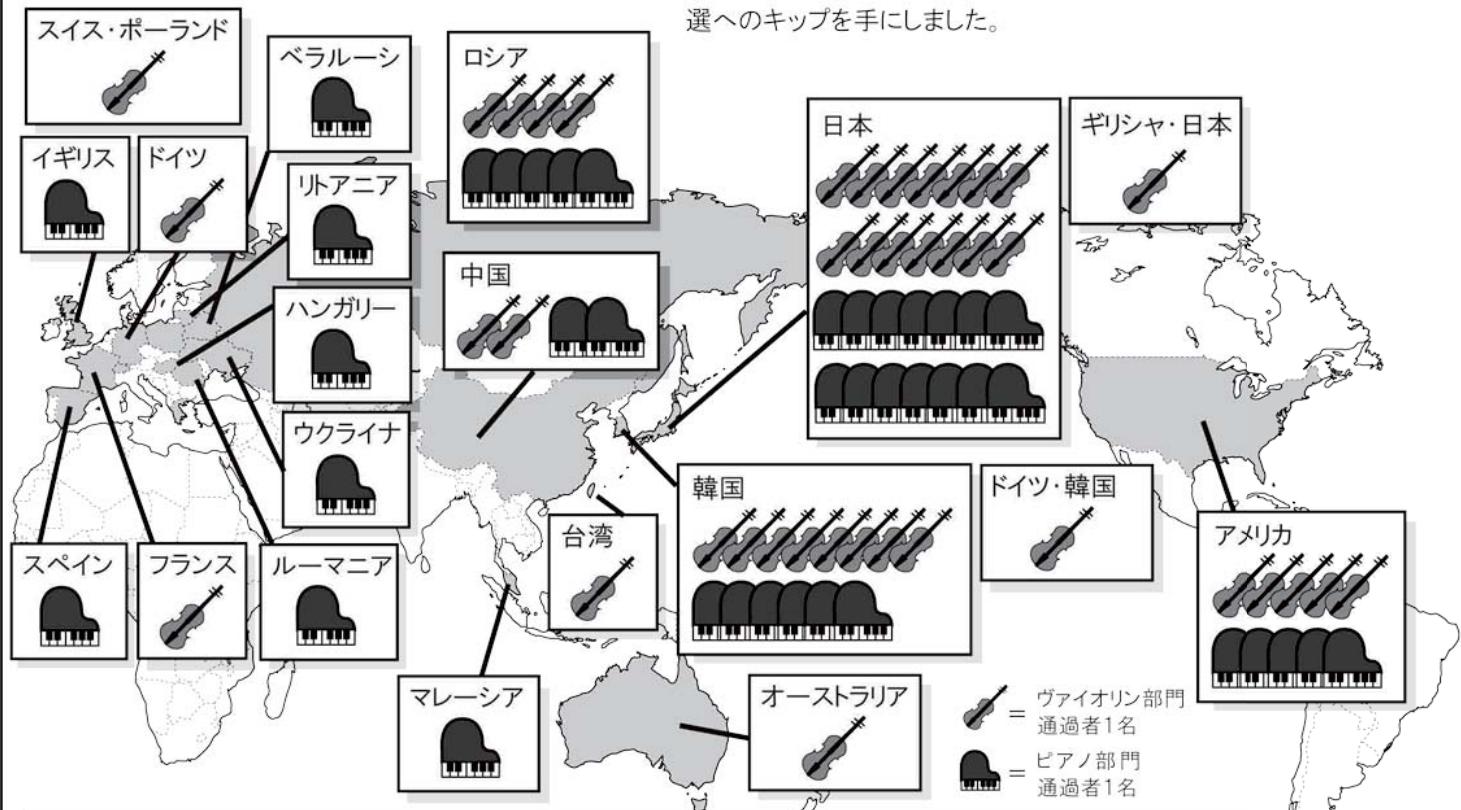
コンクールは、出場者にとって人生の転機となるような重要なチャンスです。それに携わるボランティアはコンクールの運営に深く関わり、一時の興味だけで活動に参加されるというよりも、きちんと研修を受けて、最高のホスピタリティを提供できるよう努めておられるのでしょう。

一方では出場者の方々は、極度の緊張感を持って過ごしている中で、ボランティアさんが数少ない仙台市民の方との接点となるわけですから、コンクールや仙台の街の印象を左右する重要な要素となります。

一人一人が仙台の「親善大使」の役割を担うのであり、街の顔となるわけです。300人の親善大使の皆様には、仙台市民の方が大切にしている“心”を伝えていただき、出場者や来場者、またご自身にとっても仙台国際音楽コンクールが良い経験、良い思い出となるよう活動していただければと思います。

☆奥山市長は、コンクールボランティアとのエピソードや、仙台の街づくりなどへの思いなども交えながらお話ししてください、なごやかながらも熱のこもったインタビューとなりました。ありがとうございました。

## ♪ 国と地域別 オーディション通過者数



## 第4回仙台国際音楽コンクール オーディションが開催されました！

### ♪ ウィーン会場 オーディションレポート

ウィーン在住の画家、三浦賢一さんからオーディションレポートを寄稿いただきました。

#### ○ ヴァイオリン部門 (1/16) 三浦賢一さん

ウィーンに19年住んでいて妻が声楽家であるとは言え、絵描きの私がひょんなことからウィーンでのオーディションを聴きに行くことになった。1月16日の土曜日、久しぶりによく晴れてはいるが冷たい風の吹く午後、3区にあるウィーン国立音楽演劇大学に行く。マリアテレジアイエローの立派な校舎の中の、モダンに改装された天井の高い美しい広い部屋がオーディション会場だが、その部屋を取り巻く廊下や踊り場にはすでに、静かな中にもあわただしく緊張した雰囲気が漂っていた。午後2時、観客席に座って待っていると、しばらくして審査員の方々が席に着いて、何の前ぶれもなくおもむろにオーディションが始まった。こういう場に連なるのは初めての経験であったが、若い音楽学生たちの、まさに一所懸命の姿は私にはみな美しく感じられ、眼が離せなかった。ヴァイオリンのオーディションを受けた学生は9人。私は音楽の専門家ではないので、学生達の演奏についてあれこれ書くのはおこがましい事だが、中には演奏によって、あたかも一枚の絵のようにその音楽の全体の姿を感じさせてくれた人もいたように思う。

時折、窓から差し込む美しい冬の日差しに眼を移しながら音の流れに心をゆだねていると、日差しは動くともなく動いてゆき、いつの間にか窓の外は暗くなっていた。

全ての演奏が終わり、私が会場を辞したのは午後4時50分頃であった。



### ♪ 仙台会場 オーディションレポート

#### ○ ピアノ部門 (1/24) 川村明子

1日目参加者全員(20名)の演奏を聴いたため、長丁場でしたが、たくさんのハイレベルな演奏をコンサートホールで聞くことができ、贊な時間を過ごしました。



ピアノの課題曲は参加者が任意に選んだ協奏曲の第一楽章でしたが、オーケストラのパートがピアノ伴奏で演奏されるのを見て、参加者はもちろんのことながら、伴奏者もまた大変なプレッシャーなのではないかと感じました。

聴いていて面白かったのは同じピアノでも演奏者によって音色が変わる、ということが実感できる点です。通常のコンサートでは複数のピアニストの演奏を一度に聞くことはなかなかありませんので、これもコンクールならではの体験だと思います。

#### ○ ヴァイオリン部門 (1/31) 栗原定子

アジアのオーディション会場である仙台。オーディション最終日。演奏をしている時は分かりませんでしたが、ロビーでの会話を聞いてみると韓国、中国からの参加者もいたようです。同じ曲を弾いているのに、音が違います。ステージの演奏者はとても大きく見えました。堂々と自分の音楽を聴かせてくれました。前回のコンクールに出場した方も数名いて、ロビーで少し話が出来ました。

ボランティアの私、参加者共に願いは同じ、「五月に会いましょうね」「是非！会いたいです！！」。

ボランティアを長くしていると、たくさん友達ができます。会場で声をかけてくれた方が「ボランティア続けているんですね。またお世話になりたいです」「オーディション通過を祈っています」と言って会場を後にしました。今年も素敵な音楽そして出会いが待っているような予感がします。



## ♪ 第4回仙台国際音楽コンクール 開催記念イベント ~仙台国際音楽コンクール優勝者による~

コンクールの予選を間近に控えた3月は、豪華なイベントと演奏会が目白押しですよ！

そこで2つの演奏会を彩るコンクール優勝者のお二人から、意気込みを寄せていただきました♪

### ○「ベートーヴェンの響き」

2010年3月7日（日）

仙台市青年文化センター・コンサートホール 開演15:00（開場14:30）

### ◇ 松山 泷花 さんより一言！

ソロで弾くベートーヴェンのピアノコンチェルトとヴァイオリンコンチェルト。そして、後日二人と一緒に弾くクロイツエルソナタをお聞き下さい！性格がボロボロッとでてくるベートーヴェンのコンチェルト。ピアノの津田裕也と私の性格をうまくまるめてソナタに取りかかります！

### ◇ 津田 裕也 さんより一言！

3月に私の故郷仙台で、協奏曲、デュオリサイタルと演奏させて頂ける事、幸せに思い感謝しています。ベートーヴェンのピアノ協奏曲「皇帝」は小さい頃からレコードで聴いていて、いつか弾いてみたいと思っていた曲で、仙台フィルと演奏出来る事が大変楽しみです。

松山さんとのデュオリサイタルは、昨年二人で初めて録音をした思い出の曲ブルームスのヴァイオリンソナタなどを演奏致します。松山さんは、いつも新しい音楽的なアイディアや感性を持っていて、共演する度に良い刺激になっているので、今回も楽しみです。3月に仙台で皆様とお目にかかる事、楽しみにしています！

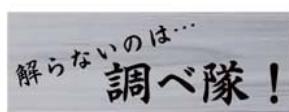
### ○「松山 泰花 & 津田 裕也 デュオリサイタル」

2010年3月11日（木）

仙台市青年文化センター・コンサートホール 開演19:00（開場18:30）



撮影：武藤 章



その二 Sz. 112  
ナゾの記号  
BWV 1003

コンクール課題曲の一覧を見ていると楽曲名の後にアルファベットや数字の記号がついています。このナゾの記号にはどんな意味があるのでしょうか？課題曲で取り上げられている作曲家の中からまとめてみました。

作曲者と記号	作成者など	作曲者と記号	作成者など
J.S.バッハ BWV	「バッハ作品目録」の略。シュミーダー(ドイツの音楽学者)年代順ではなく、歌曲・室内楽曲・鍵盤楽曲などの作品分類によりまとめた。	ベートーヴェン Op. WoO	ベートーヴェン本人及び出版社。ただしキンスキーア(音楽学者)とハルム(文献研究家)が作品番号の付いていた楽曲をWoO(Werke ohne Opuszahlの略)作品番号なしという意味で付けているものもある。
モーツアルト K.	ケッヘル(モーツアルト研究家)が作品年代順にまとめた。後の研究で新しい曲の発見などで何度も改訂されている。	リスト S	ハンフリー・サーク(作曲家)が曲目別に分類した目録のサール番号Sと、ペーター・ラーベ(リスト博物館館長)による曲目別のラーベ番号Rの2つが用いられているが、現在ではサール番号のほうがよく使われている。
バルトーク Sz.	バルトーク本人及びセーラーシ・アンドラーシュ(ハンガリーの作曲家)が論文中の目録で付けた。		



ホシヤマ珈琲店

～クラシック音楽が流れるお店 No.3～

市内に本店とAER店の2店舗を構えるホシヤマ珈琲店。今回は本店を取材させていただきました。



■ダークブラウンを基調とした、まるでどこかのロッジを思わせる店内にアンティーク調の家具が、しつとりと落ち着いた大人の雰囲気を醸し出す、お洒落な空間でした。

■いずれの店舗でも、贅沢に生けられた生花と、ネックレスのチェーンのように並べられた沢山のカップが迎えてくれます。お花は、1989年の創業時から続く“ご来店のお客様にお花で心の安らぎを”という想いによるもの。沢山のカップは、その中からお客様の印象に合わせてセレクトしてくださり、来店の度に別のカップで提供するというこだわりがあるそうです。

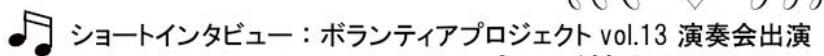
よく目にするラテン語が由来の「Op.」(オーパス)は「作品」という意味です。ベートーヴェン以外にも多く使われています。後世の研究者が付けた作品番号は作成者の名前からとったものが多いようです。

■ホシヤマ珈琲店の今年のテーマは“ご来店くださった方にホシヤマ珈琲を好きになって頂けるようなサービスを提供すること”。珈琲の値段は安くはないけれど、値下げは考えていないそうです。その値段に見合った雰囲気、またサービスを提供するという熱い思いが感じられます。



■ピアノがあるAER店では年に6回週末にサロンコンサートを行っているそうです。普段、頑張っている自分へのご褒美に、ほっと一息、心地よい音楽と贅沢一杯はいかがでしょうか。

仙台市青葉区一番町4-9-1 かき徳玉澤ビル3F  
市営地下鉄勾当台公園駅下車、南3出口から徒歩5分  
営業時間 10:00～23:00(日曜・祝日は21:00まで)  
定休日 元日のみ 022-263-5560



## ♪ ショートインタビュー：ボランティアプロジェクト vol.13 演奏会出演 ルー・イチューさん（第3回コンクールピアノ部門第2位）

11月19日仙台市戦災復興記念館 記念ホールでの演奏を終えたイチューさんにインタビューをしました。  
当日は207席満席でした。

### ♪久しぶりの仙台はいかがですか？

コンクールで仙台に来たときは新緑が綺麗な時でした。今回は、秋の仙台を楽しんでいます。

### ♪コンクールで来たときと、今回の来日とでは何が違いますか？

とても違います。コンクールの時は自分自身の事で来ました。今回は演奏会、コンサートは観客と音楽・感動をシェアしなければいけません。今回は観客の為にベストを尽くさなければいけないと思います。

### ♪ベルリンではどのような生活をしていますか？

コンサートを聴きに行ったり、自分自身のレッスンです。良い先生との週一回のレッスンを無駄にしたくないので、時間があれば練習ですね。

### ルー・イチュー プロフィール



1982年台湾・台北市生まれ。1999年ウィーン国立音楽演劇大学入学、2007年学位取得。2006年ベルリン芸術大学に入学、クラウス・ヘルヴィッヒ氏のもとで研鑽を積む。第3回仙台国際音楽コンクールピアノ部門第2位の他、14の著名な国際コンクールに入賞。ウィーン放送交響楽団等の多数のオーケストラと共に演。また、室内楽や現代音楽等、多分野で活躍中。  
公式HP : <http://www.yichihh.com/>

### ♪好きな演奏家はいますか？

好きな演奏家は内田光子さん、マレイ・ペライヤ、レイフ・オヴェ・アンスネスです。

### ♪今日のアンコールに左手だけで弾いた「ダニーボーイ」の編曲者は誰ですか？

あれは私の編曲です。ある日、左手だけで弾いていたら素敵なアレンジが出来ました。

2時間の演奏会を終え、お疲れのご様子でしたが、とても丁寧に対応してくれました。ドイツ語、英語、そして日本語。解らない時は「漢字」でコミュニケーションをとりました。爽やかな、27歳の青年、ルー・イチューさんでした。

### ボランティアプロジェクトvol.13

#### 「ルー・イチュー ピアノリサイタル」演奏曲

- ・ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ「悲愴」、「熱情」
- ・グリュンフェルト：ウィーンの夜会 op.56  
(ヨハン・シュトラウスによる 演奏会用パラフレーズ)
- ・モーツアルト：ピアノ・ソナタ第11番イ長調 K331  
(トルコ行進曲付き)
- ・ラヴェル：ラ・ヴァルス

## ♪ 第4回仙台国際音楽コンクール コンクール出場者が決定しました

CD等による予備審査を通過した若き演奏家たちが、世界6都市で開催したオーディションに参加しました。審査の結果、20の国と地域の計80名(各部門40名)がオーディションを通過して、第4回仙台国際音楽コンクールに出場することとなりました。

出場者の情報は、公式ホームページで詳しく公表しています。

### ○ オーディション開催（参加人数）

開催都市	ヴァイオリン部門	ピアノ部門
ニューヨーク	2010年1月7日(28名)	2010年1月8日(21名)
モスクワ	2010年1月11日(4名)	2010年1月12日(8名)
ベルリン	2010年1月14日(11名)	2010年1月15日(27名)
ワイン	2010年1月16日(9名)	2010年1月17日(6名)
パリ	2010年1月18日(9名)	2010年1月19日(12名)
仙台	2010年1月30日・31日 (34名)	2010年1月24日・25日 (31名)

## 第4回仙台国際音楽コンクール

### ヴァイオリン部門

- 5月22日(土)～24日(月) 予選
- 5月29日(土)～31日(月) セミファイナル
- 6月4日(金)～5日(土) ファイナル
- 6月6日(日) 入賞者記念ガラコンサート

### ピアノ部門

- 6月13日(日)～15日(火) 予選
- 6月19日(土)～21日(月) セミファイナル
- 6月25日(金)～26日(土) ファイナル
- 6月27日(日) 入賞者記念ガラコンサート

会 場：仙台市青年文化センター コンサートホール  
(仙台市青葉区旭ヶ丘3-27-5)

### 3月12日(金) チケット発売開始

※「審査委員によるマスタークラス」チケットも同時発売！

### 編集後記

の一時と一緒に過ごせるって素敵だと思いました。出会いを楽しみにしきに行けませんでした…泣。本選は

○締切を全然守れなかった自分を ています。(栗)

戒めます…。時間は大切で、有限。

○音楽は「聴くだけ隊」だった私。

でもたくさん書かせていただいて嬉しくなります！(松)

○「名曲探偵アマデウス」というNHK

の番組、名曲の謎や聴きどころが

ミカルなドラマ仕立てで解説されて

いてオススメです。(川)

○オーディション最終日に会ったS

さん。大学を卒業してドイツに留学

中とか。若い演奏者の素敵人生

「調べれば調べるほどにわいてくる

音楽のナゾ興味関心」でした。(薰)

○初めて行きました。ホシヤマ珈琲。

あの雰囲気に似合うような女性

なんとしても予定を開けて聴きにいくぞー！(曾)

○オーディションが終わっていよいよ

コンクールの開催に向けた動きが始

まります。新しい出会いに膨らむ期

待かな、あ、川柳はもういいんじ

ね。(事務局・水)

○笑い声あり、唸り声ありの編集会

議。コンセルトによって、より多くの

方々にコンクールが伝わりますよう

に。(事務局・海)

年か  
彩さ  
のね

纺音  
ぎを  
ゆく  
(吾)

こんちえると川  
柳

発 行：第4回仙台国際音楽コンクール 広報宣伝サポートボランティア